令和２年度　横浜市民スポーツ意識調査報告書　概要版

Ⅰ　調査概要

１　目的　　国の「スポーツ基本計画」を参考に策定された「横浜市スポーツ推進計画」において、「する」「みる」「ささえる」スポーツの向上に向けて、運動・スポーツの実施率等、横浜市における現状を把握するため、市民を対象としたスポーツ意識調査を実施した。また、その結果を活かし、本市スポーツ施策における各種事業の現状と課題について考察し、課題解決にむけた新たな政策立案等につなげていく。

２　対象者　（1）横浜市に居住する満 20 歳以上の調査機関登録者（モニタ）

（2）横浜市に居住する満 20 歳以上で、調査機関登録者（モニタ）のうち、本人もしくは同居の家族に障害のある方

３　抽出方法　（1）性別・年齢・居住区の構成比率を基にモニタの中から有意抽出法により抽出

（2）モニタの中から有意抽出法により抽出

４　調査方法　インターネットによるアンケート調査

５　調査期間　令和２年 10 月９日（金）～10 月 26 日（月）

６　回収状況　（1）有効回答数：1,995 件（ウェイトバック集計後 2,000 件）　（2）有効回答数：393 件

※各区の人口構成比と調査設計のサンプルの割当て件数(2,000)でウェイトバック集計を行った。
※表中に複数回答の記載がある設問は、比率の合計が 100%にならないことがある。

Ⅱ　結果概要

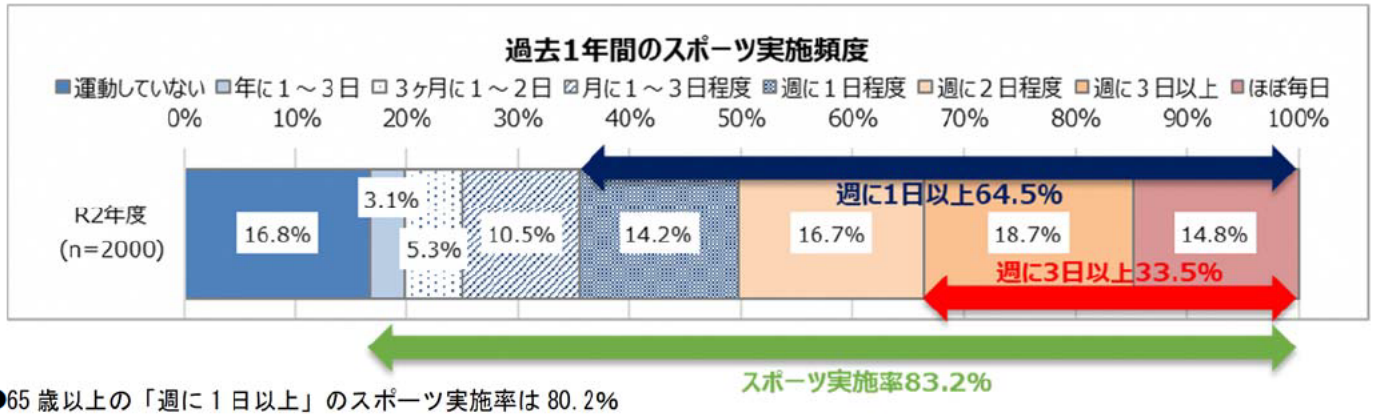
「する」スポーツ

●「週に１日以上」のスポーツ実施率は 64.5%

令和元年度の 55.8%より 8.7 ポイント増、横浜市スポーツ推進計画の目標（以下、市の目標）（65%）には 0.5 ポイント及ばなかった。

●「週に３日以上」のスポーツ実施率は 33.5%

令和元年度の 29.1%より 4.4 ポイント増、市の目標（30%）を 3.5 ポイント上回った。

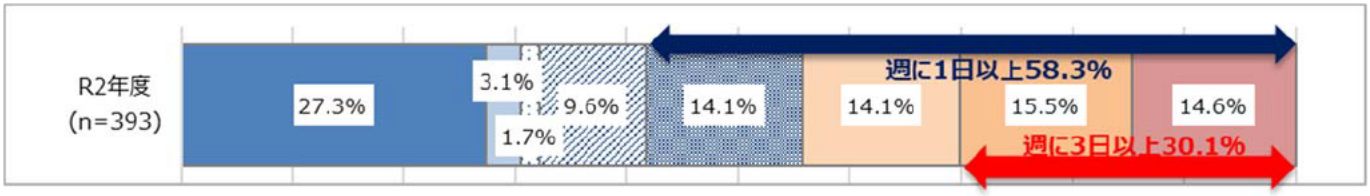


●65 歳以上の「週に１日以上」のスポーツ実施率は 80.2%

令和元年度の 74.8%より 5.4 ポイント増、市の目標（70%）を 10.2 ポイント上回った。

●障害のある方の「週に１日以上」の実施率は 58.3%

令和元年度の 36.7%より 21.6 ポイント増、市の目標（40%）を 18.3 ポイント上回った。

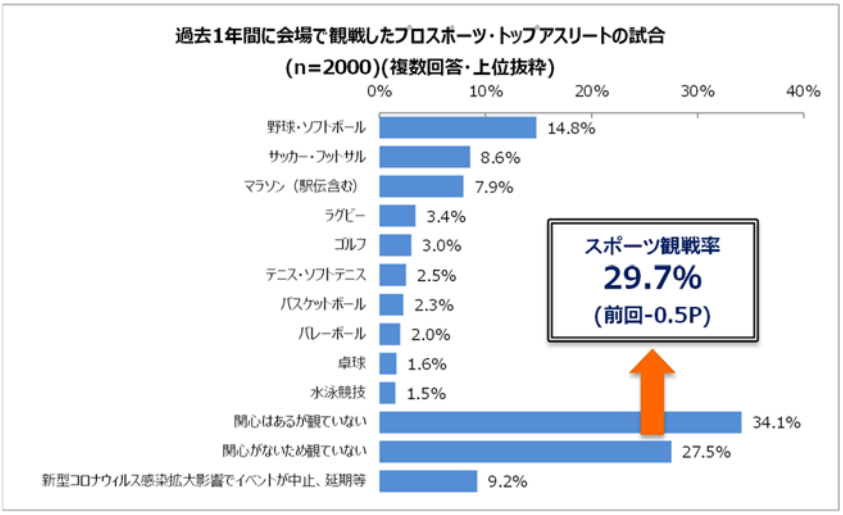


「みる」スポーツ

●過去１年間の会場での観戦率は 29.7%

令和元年度の 30.2%より 0.5 ポイント減、市の目標（50%以上）には 20.3 ポイント及ばなかった。

新型コロナウイルス感染症の影響により、トップスポーツの開催が制限されていたものの、観戦率に大きな影響はなかった。

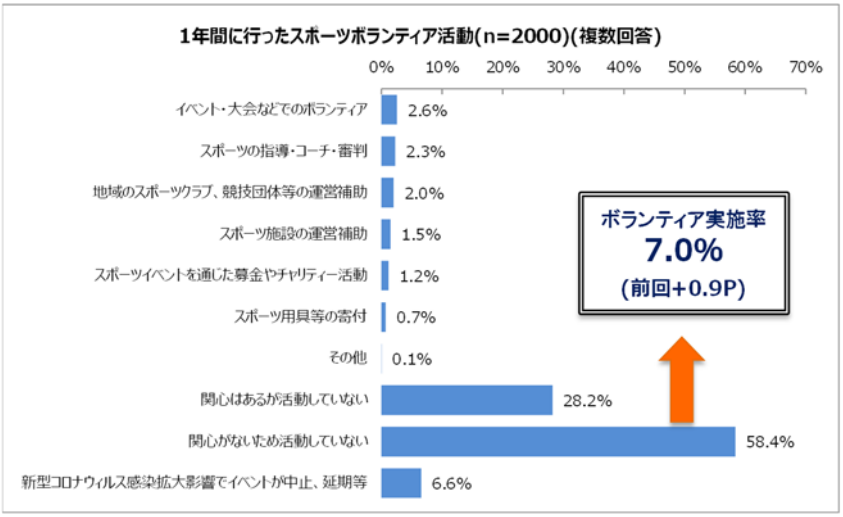


「ささえる」スポーツ

●過去１年間に行ったスポーツボランティア活動への参加率は 7.0%

令和元年度の 6.1%より 0.9 ポイント増、市の目標（10%以上）には 3.0 ポイント及ばなかった。

新型コロナウイルス感染症の影響によりスポーツイベント等が中止になったものの、参加率は増加する結果となった。

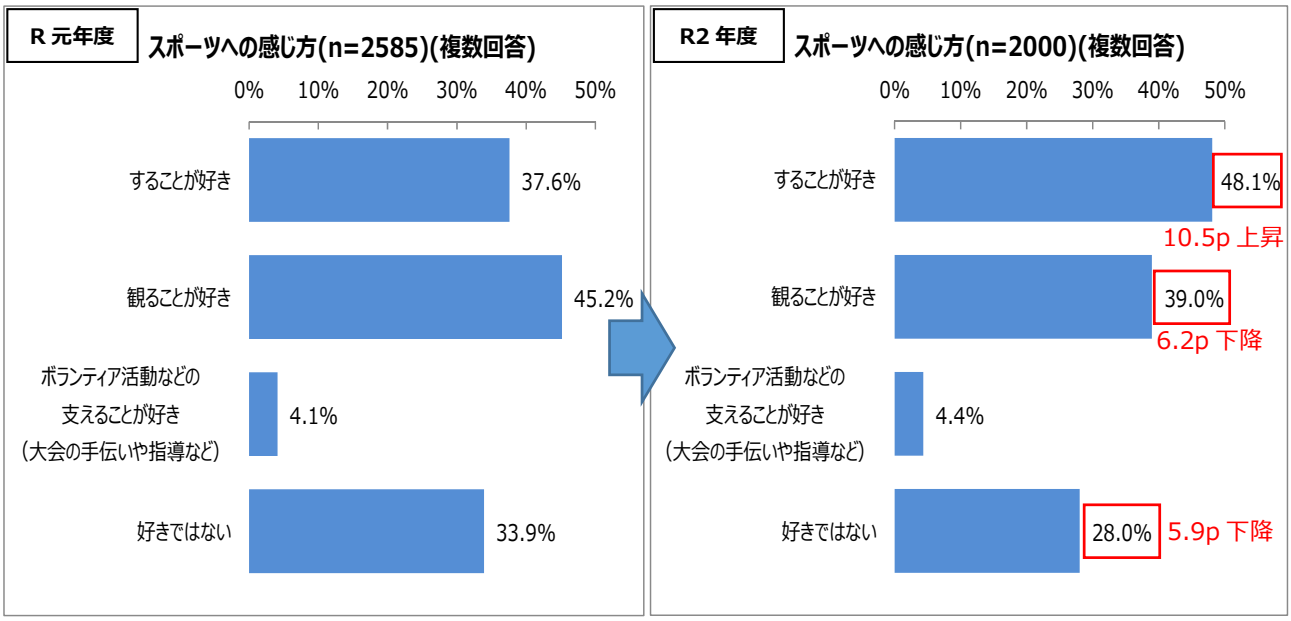


令和元年度調査からの変化

新型コロナウイルス流行に伴う緊急事態宣言下での行動・外出の自粛や、公共施設・スポーツ施設の活動・営業自粛などの下でのスポーツの行動・意識の変化を、令和元年度の調査結果と比較した。

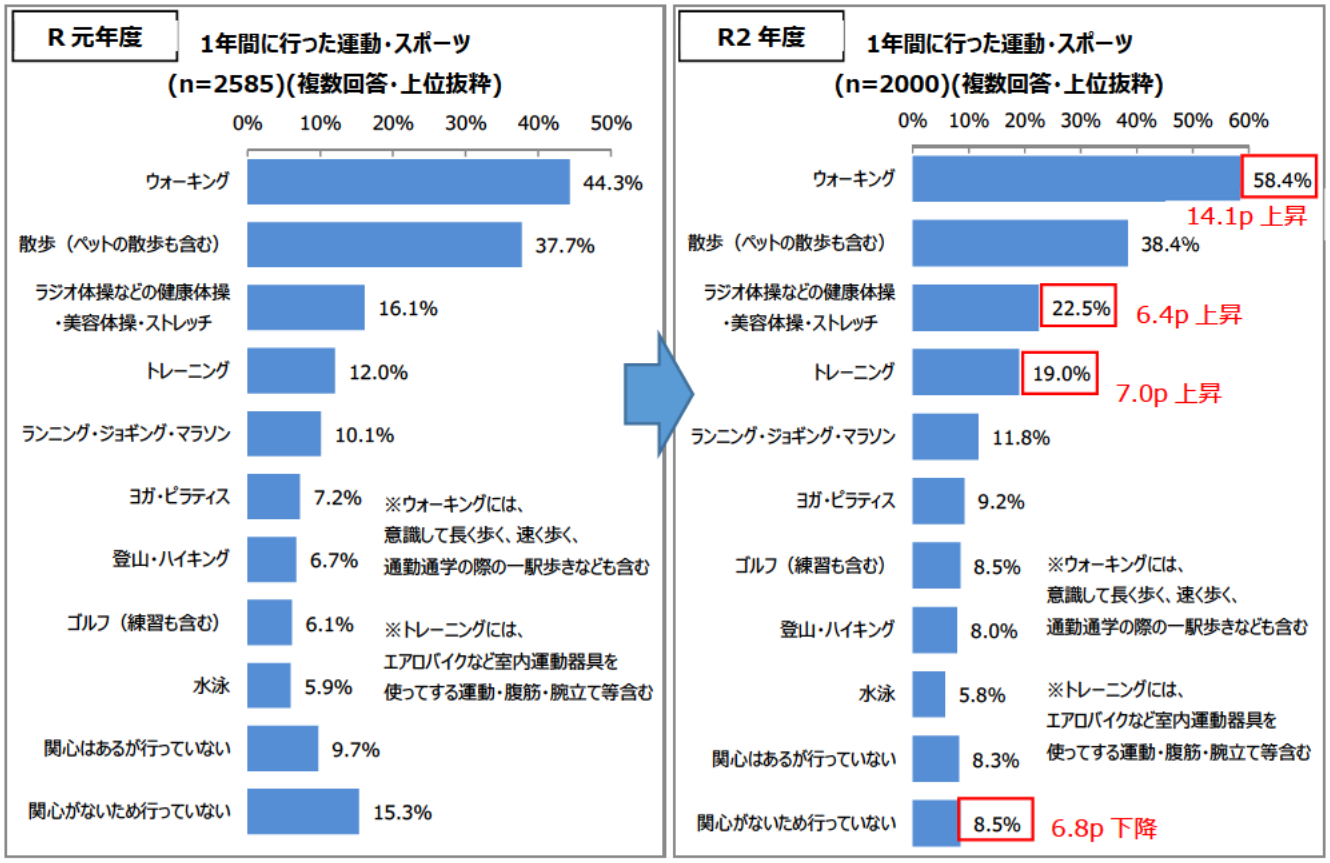
●スポーツへの感じ方の変化

スポーツに対して、“観る・好きではない”から“する”への能動的なかかわり方への意識の変化がみられる。



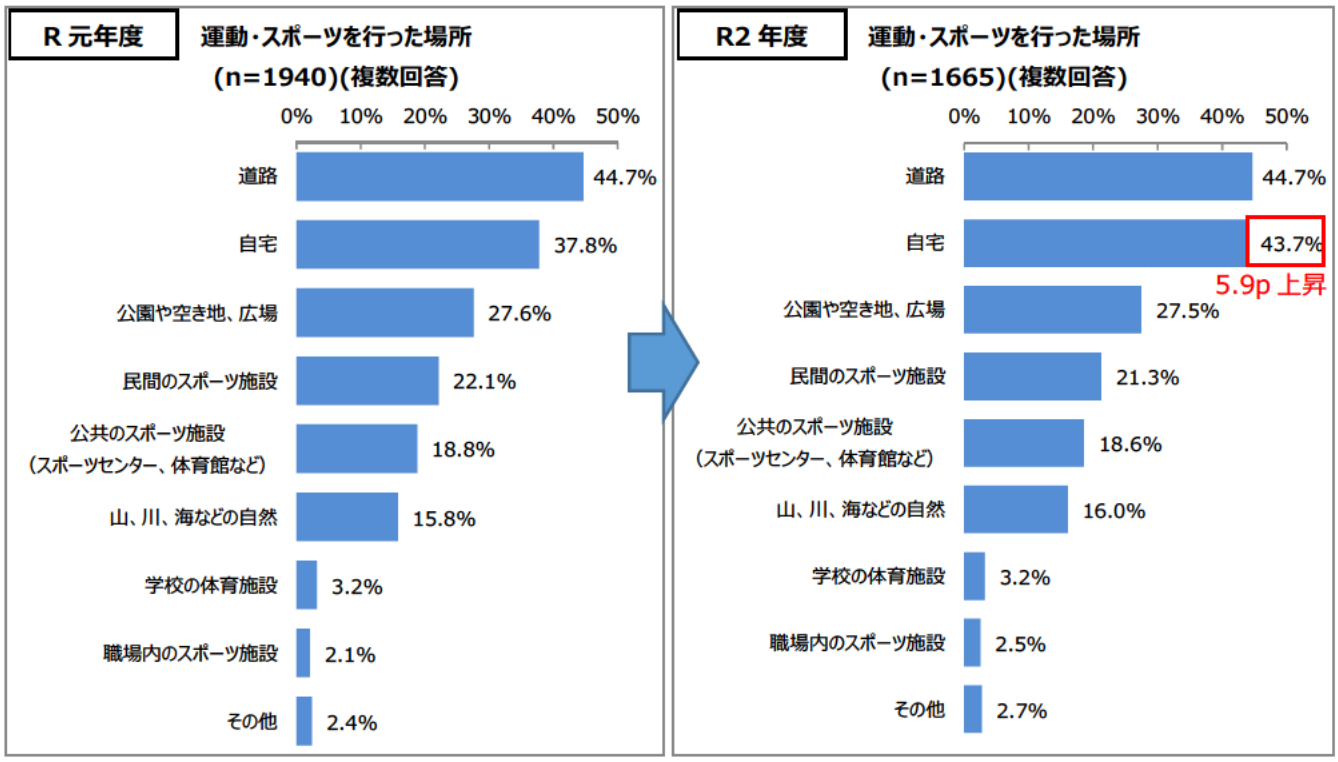
●過去１年間に行った運動・スポーツ

「ウォーキング」「ラジオ体操等」「トレーニング」など、気軽にできるスポーツの実施率が増加している。「ウォーキング」はＲ元年度 44.3%に対し、R2 年度は 58.4%と 14.1 ポイント上昇している。



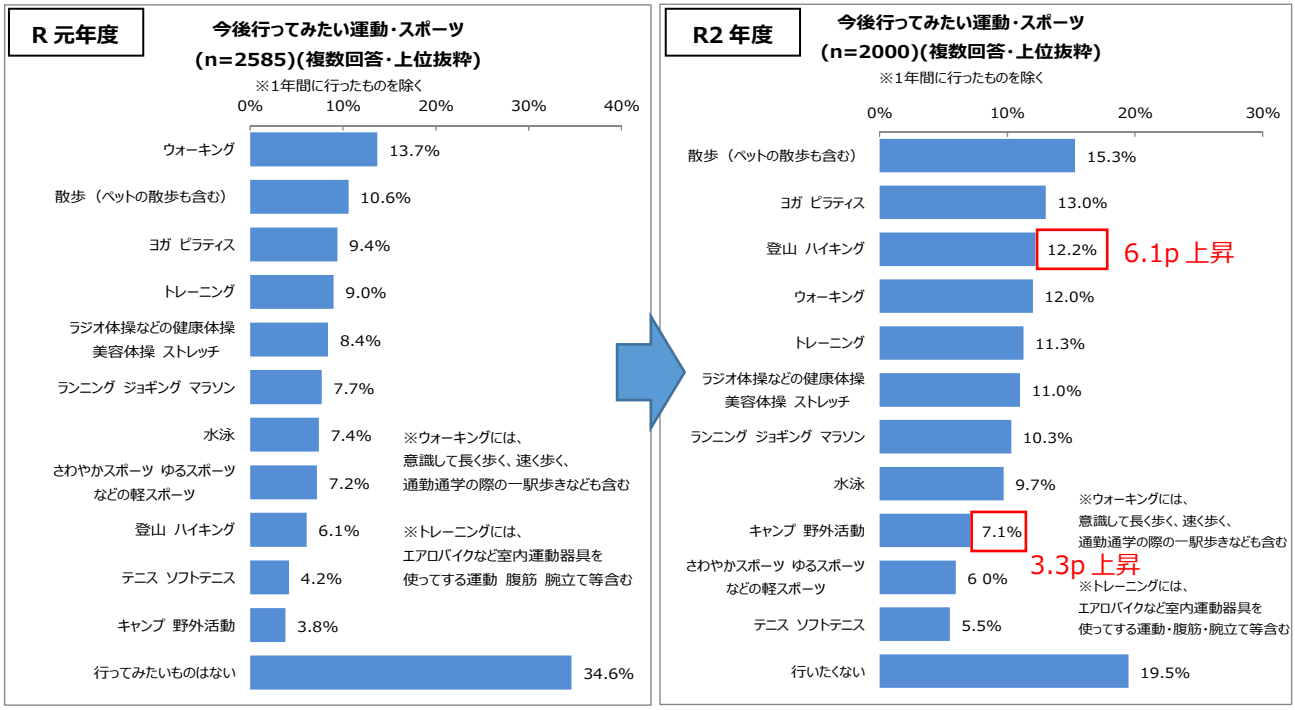
●運動・スポーツを行った場所

「自宅」はＲ元年度 37.8%に対し、R2 年度は 43.7%と 5.9 ポイント上昇している。



●今後行ってみたい運動・スポーツ

R 元年度に比べ R2 年度は「登山・ハイキング」が前年 9 位（6.1%）から 3 位（12.2%）と大きく順位を上げているのが目立つ。また、前年上位 10 位以下であった「キャンプ・屋外活動」が R2 年度は 9 位（7.1%）となった。



以上の結果から、運動・スポーツを実施する意向が高まっており、軽い運動や身近な場所からの取り組みがみられる。今後は自然の中での活動への意向が見られる。

ラグビーワールドカップ 2019™、東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの関心について

令和元年 9 月～11 月に開催されたラグビーワールドカップは、「ラグビーへの関心が高まった」が令和元年度の 18.1%より 12.9 ポイント増の 31.0%となり、市民の関心が高まっていることがわかる。

「オリンピックをテレビ・ネットで観戦したい」は令和元年度の 31.4%より 3.3 ポイント増の 34.7%となった。また、「オリンピックを会場で観戦したい」は令和元年度の 20.6%より 4.9 ポイント増の 25.5%、「パラリンピックをテレビ・ネットで観戦したい」も令和元年度の 13.0%より 2.6 ポイント増の 15.6%となった。

新型コロナウイルス感染症により大会開催が 1 年延期したものの、大会への関心は昨年度より増していると言える。

Ⅲ　まとめ

令和 2 年度は、「週に 3 日以上」のスポーツ実施率及び 65 歳以上の「週に 1 日以上」のスポーツ実施率、障害のある方の「週に 1 日以上」のスポーツ実施率が市の目標を上回った。また、スポーツ観戦率以外のすべての項目が令和元年度を上回った。

その要因として、新型コロナウイルス感染症による外出自粛により、運動の必要性に対する認識が高まったことなどが考えられる。

Ⅳ　報告書について

報告書（PDF）は、横浜市ホームページにて公開しています。報告書では、単純集計のほか、性別、年代別、性・年代別、居住区別のクロス集計結果等も掲載しています。

なお、今年度の結果については、調査会社変更に伴い、回答者の特性に違いが生じています。そのため、報告書第 6 章にて今年度の回答者の属性（職業・収入・結婚・子どもの有無等）を昨年度の属性分布に一致させ、ウェイトを調整したうえで再集計、考察したものも掲載しています。詳細は報告書を御参照ください。

【令和２年度横浜市民スポーツ意識調査報告書　概要版】
令和３年１月
編集・発行　横浜市市民局スポーツ振興課
横浜市中区本町 6-50-10
045-671-3583
https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/